



街灯台(まちあかり)・うわまちオレンジカフェ ～「当たり前に生きる」を目指して～

うわまちオレンジカフェ代表の鈴木則子さんにお話を伺いました。

【私が認知症カフェを始めた原点】

「ケアマネさん、ここの家の人、認知症でしょ。火でも出されたら怖いから、早く施設にいてよ。」ケアマネジャーとして認知症のお一人暮らしの方の訪問を終えた私に、近所の方がこう声をかけて来られました。「そんな事言わないで、今その言葉を言ったあなたが、次には認知症になるのに。」この言葉をぐっと飲みこみ何もできなかった無力感こそ、私が認知症カフェを始めた原点でした。

まちの診療所つるがおかのかの千場先生のお力添えをいただき、うわまちオレンジカフェは、2022年7月に上町で小さな産声を上げました。目指したことは、認知症であっても「当たり前に生きる」地域を作る事です。認知症の人を排除すれば、それはいつか、必ずブーメランのように自分のところに戻ってきます。

【ようこそ、うわまちオレンジカフェへ】

うわまちオレンジカフェは、自由に会話を楽しむカフェタイムと認知症について正しく知るためのミニ講話を設けています。これまでの講話は、「認知症と薬の話」「認知症の方の歯科治療」「聴こえの話」などの医学的なことから、薬膳料理の講習、自分を表現する川柳大会などです。スタッフは医師、看護師、管理栄養士、ケアマネジャー、社会福祉士の専門職で構成されており、カフェのあと参加者の相談をお受けすることがあります。



(僧侶からマインドフルネスを学ぶ)



(春の薬膳講座)

また、認知症の人が当たり前に参加ができることを目指して、博物館ツアーや買い物をしやすくするための試み、認知症サポーター養成講座の開催なども計画中です。

認知症に悩み苦しんでいる方の街中での灯台となれるよう、うわまちオレンジカフェはチャンレジを続けています。原則として毎月第二土曜日 13:30～15:30、場所は上町深田町内会館を中心に行っています。ぜひお立ち寄りください。

【認知症について、私たちが考えていること】

認知症は誰もがなりうる病の結果であり、決定的な治療法が確立していない今、認知症を忌み嫌うのではなく、認知症とうまく付き合い、認知症であっても地域で当たり前に生きることを目指すことが合理的です。そして、そのためには、認知症について正しい知識を持つことが大切だと私たちは考えています。認知症の人の中で何が起きているのか、認知症とどう付き合いえばよいのかを知ること、正しく恐れることができ、差別や偏見を向けることなく、また自分も絶望しないで済むのです。

問い合わせ先:福祉総務課 地域力推進係 (046-822-9804)